

文書質問

上記の件について、嬉野市議会基本条例第7条第1項第3号の規定により提出する。

令和5年6月22日 提出

嬉野市議会議長 辻 浩一 様

提出者 嬉野市議会議員（議席番号第14番） 田中 政司

（質問事項）

茶業振興対策について

（質問の要旨）

令和5年産の1番茶の生産、取引もほぼ完了しているが、市の基幹作物である「うれしの茶」のこれからの振興対策について以下、質問する。

- ① 本年産1番茶の生産量、取引高、荒茶の平均単価等は対前年比でどうだったのか。
- ② 肥料や燃料の高騰により生産費が増大し、茶生産農家は厳しい経営状況である。国や県、市の支援策については令和5年度も継続していただきたいと考えるが状況はどうなっているのか。
- ③ 「うれしの茶」としてのブランドは、釜炒り茶や蒸し製玉緑茶として全国的に認知度は高い。販売力を高め、消費量を増やしていくことが荒茶価格や生産量の維持につながる。そのための有効な対策を行政としても早急におこなうべきと考えるが如何か。

追加項目（③に関連して）

- ① 令和5年度当初予算においても「うれしの茶産地振興支援事業」や「うれしの茶需要拡大対策事業」が予算化されている。子供たちへの茶育活動は大切であり効果も期待するが、PR等による茶の消費拡大については、効果が表れていないと思う。今後は、市が主催している嬉野茶活性化委員会が主体となった消費拡大、販売促進のための事業（うれしの茶市等）を考えては如何か。
- ② 荒茶価格の低迷で茶生産者の経営状況は非常に厳しく、このままでは数年後には嬉野茶の存続さえ危ぶまれる状況である。そこでJAの茶業部会や茶業青年会がJA本所に対し、JAの組織力等を活かした茶販売力の強化策を求める要望書を提出されると伺っている。
行政としても茶業部会やJAと協議し、行政として可能な支援策を講じるべきと考えるが如何か。